

フルトヴェングラーを聴く

AAFC4 月分科会 金古 尚

ウィルヘルム・フルトヴェングラー (1886-1954)

1886 年ベルリンで生まれました。8 歳から音楽を学んだといわれています。1906 年にミュンヘンで指揮デビュー、その後、ドイツ各地の歌劇場で練習指揮者を勤め 1911 年リュベック歌劇場の音楽監督に就任。1922 年ニキシュの後任としてライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団とベルリン・フィルの常任指揮者に就任、ウィーン・フィルの指揮者、バイロイト音楽祭の音楽監督、ベルリン国立歌劇場音楽監督を歴任、ニューヨーク・フィルハーモニックにも客演し、活躍を続けます。しかし第 2 次世界大戦後、ナチスの協力者とみなされ演奏活動を禁止されますが、1947 年ベルリン・フィルを指揮して活動を再開します。1951 年再開されたバイロイト音楽祭でベートーヴェンの第 9 を指揮、1952 年にはベルリン・フィルの終身指揮者となり活動を展開しました。1954 年、肺炎のため亡くなりました。

J.S.バッハ： ブランデンブルク協奏曲第 5 番ニ長調 BWV1050 第 1 楽章

ピアノ ウィルヘルム・フルトヴェングラー

ヴァイオリン ウィリー・ボスコフスキー

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 1950.8.31

まずバッハ (1685-1750) を。テンポを遅めにとってゆったりと演奏しています。ここではチェンバロではなくピアノを使っていますが、弾いているのがフルトヴェングラー。自在なバッハが聴けます。ちなみにフルトヴェングラーは大ホールで小さな編成のオーケストラや合唱が演奏することには疑問を持っていました。音楽の伝わり方が小さな空間でのそれとは質的に違ってくるのではないか。こうした配慮は必要なのではないかという彼の考えは今でも重要なものに思えます。

モーツァルト：交響曲第 40 番ト短調 第 1 楽章

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 1948.12.7-8

フルトヴェングラーのモーツァルト (1756-1791) は個性的で、厳しい響を作り出しています。ここでもテンポの速さが印象的。スケールの大きさを感じさせる演奏だと思います。この行き方が結実したのが「ドン・ジョバンニ」になるのだらうと思います。彼は第 40 番を好んだと言われています。第 1 楽章を聞いてみましょう。

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲ホ短調 第 2・第 3 楽章

ユードイ・メニューイン ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

1952.06.26

協奏曲ではメニューインとのものを選びました。メニューインは「ベートーヴェンの協奏曲はフルトヴェングラー以外の誰とも弾きたくない」と言っていました。フルトヴェングラー

がナチ裁判になった時に彼を助けたのがメニューインでした。ここではメンデルスゾーン (1809-1847)を聴きましょう。

ユーディ・メニューイン (1916-1999)

ニューヨーク生まれ。神童といわれ 20 世紀を代表するヴァイオリニスト。ユダヤ人音楽家。親日家としても知られています。フルトヴェングラーを擁護し、実現はしませんでした。彼のアメリカ行きを進めました。後年は指揮活動も行っていました。1999 年肺炎でなくなりました。

R.シュトラウス： 交響詩「ドン・ファン」

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

1951.01.24

ドイツ・ロマン派の最後の巨匠とされる R.シュトラウス (1864-1949) は最初はソナタや室内楽を書いていましたが、リストやワーグナーの影響を受ける中で標題音楽やオペラに興味を持ちます。まず彼が目を向けたのは標題音楽である交響詩で、いくつかの作品が残されます。フルトヴェングラーの R.シュトラウスの交響詩はこのほかに「死と変容」の素晴らしい演奏もあるが、ここでは「ドン・ファン」を聴きましょう。これも素晴らしいと思います。

ベートーヴェン：交響曲第7番ニ長調より リハーサル風景 (一部)

ルツェルン

1951.08.15

後半はベートーヴェン(1770-1827)を聞きます。第7のリハーサルが残されていたので、少しきいてみましょう。

ベートーヴェン：交響曲第5番ハ短調 Op67

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

1947.05.27

クラシック音楽を代表する劇的な作品。フルトヴェングラーの遺産を代表するのはやはりベートーヴェンかなと思います。何を聞こうかと思ったのですが、第5を選びました。フルトヴェングラーの第5だと 1954 年の EMI 盤が素晴らしいと思います。スタジオ録音で遅めのテンポをきっちり演奏していく中に、スケールの大きさを存分に感じさせる立派な演奏です。今回はそれにしようかとも思ったのですが、1947 年のライブ録音を選びました。この 1947 年 5 月の演奏会はフルトヴェングラーの戦後の第 1 回復帰演奏会になります。1954 年盤とは違ったこれも大変な演奏だと思います。(使用 CD は全て Membran)

終わりに… フルトヴェングラーをいくつか聞いてきました。音楽好きには避けて通れない大指揮者だけに、皆さん一人一人に「私のフルトヴェングラー」があると思います。ぜひお話を聞きたいと思っています。今日はありがとうございました。